

学力レベルの高い生徒が率先して課題を調べて発表し、他の生徒は聞くだけの「お客様」状態に。そんなグループ学習でありがちな弱点を克服し、全員が互いに教え合うように導く「協調学習」の手法が、教育現場で広がりつつある。（馬場洋太）

広島県の加計中で公開授業

町内の全校で協調学習を実践している広島県安芸太田町。加計中で16日あつた3年の公開授業は、協調学習の手法の一つ「ジグソー法」で進められた。各自がヒントを持ち寄り、ジグソーパズルのように考え方を組み合わせ、全員参加で課題を解く手法だ。

他の2人に説明

この日の数学の本題は

「 $\sqrt{8} + \sqrt{18} = ?$ 」。平方根について学び始めた段階では、やや難しいとされる。

教員は、本題を解く上で必要な3種類の問題を用意。生徒を3グループに分けて、それぞれ問題を解かせる。次に、各グループから1人ずつの3人一組をつくり、自分が担当した問題を他の2人に説明する。

例えば、あるグループの生徒には、方眼紙に二辺の

数学が得意ではないといふ状況をつくることで、どう対応すればいいのかが保証されるのが最大の特徴」と強

る。

協調学習みんなが主役

発言機会を保証

課題は教員側の指導だ。

東京大の大学院教育支援センター(COREFE)が提唱する「コソーシアム推進機構(COREFE)」が、生徒の主体的な学びを促す「アクティブラーニング」の一形態。斎藤萌木特任助教は、「この問題について説明できるのは自分だけ」とい

う状況をつくることで、どなたも発言機会が保証される。COREFEは「教員同士のネットワークも大事にして、授業の工夫について意見交換しながらレベルを高めてほしい」と勧めている。

全員で教え合い「お客様」生徒をつくらない

ジグソー法による授業の例

- ① 本題を提示する… $\sqrt{8} + \sqrt{18}$ の計算の仕方を考えよう
- ② 生徒を3グループに分け、ヒントとなる問題をそれぞれ解かせる

問題Aを解くグループ

$\sqrt{2} + \sqrt{3} = \sqrt{5}$ で正しいか考えなさい

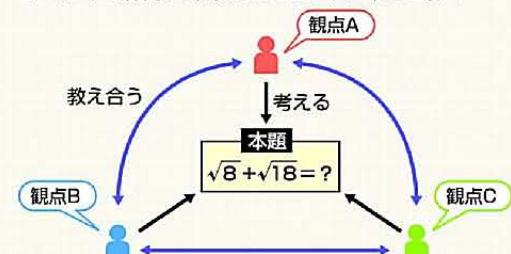
問題Bを解くグループ

方眼紙に長さ $\sqrt{8}, \sqrt{18}$ の線分を描きなさい

問題Cを解くグループ

$3.14 \times 97 + 3.14 \times 3$ を工夫して計算しなさい

- ③ 各グループから1人ずつで3人一組になり、②で解いた問題のポイントを仲間に説明。それをヒントに本題を解く



3人一組になり、持ち寄ったヒントから正解を探る生徒たち（広島県安芸太田町の加計中）

調する。自分の言葉で考えを相手に伝える能力も養われるという。

安芸太田町教委は2010年度に導入。小中学校の全学年が算数や理科、音楽など幅広い教科で実践している。学力定着への成果までは測れていない。それでも加計中の森木義和教諭は「一日頃から教科書やノートを見返し、ヒントを探る学習を実践できることが多い。協調学習で、多様な考え方を突き合させて課題を解決する習慣が身に付いたからではないか」と話す。

中国地方では、萩市や浜田市などでも実験例がある。防府、萩市などの教員約30人は協議会を結成。会長を務める華西中(防府市)の藤井剛校長は「学力下位の子は仲間に説明する責任から一生懸命になり、上位の子も説明の工夫を通じて理解を深める。全員が同じ理解を深める。金員がその子なりに成長できる」と利点を協調。実験校を順次増やしていく考えだ。